

3 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために



食べ残しや、農林水産業への理解と地域でとれる農林水産物を積極的に消費する地産地消を進めるなど、環境に配慮した食生活の推進に取り組みました。

(1) 食生活における「もったいない」意識の浸透と実践

食生活における環境への負荷の軽減のため、「もったいない」意識の浸透を図り、環境に優しい料理の実践促進に取り組みました。

「もったいないばあさんがこないよ大作戦！」

安城市立安城幼稚園（愛知県国公立幼稚園長会）

●実施時期：平成26年6～7月

●対象者：3歳児

●内容

絵本「もったいないばあさんがくるよ」を見たり、もったいないばあさん音頭を踊ったりして「お皿の上の食べ残し」「茶碗についてご飯粒」の内容が楽しく身につくようにしました。

また、個々に合った分量を配膳することで全部食べることができた満足感が味わえるようにし、お皿を空っぽにすることに喜びが感じられるようにしました。

●活動の成果、今後の課題

空っぽになったお皿を嬉しそうに見せる姿が見られるようになりました。

また、少量でも残さず食べる経験を重ねたことにより、一人一人の食べる量が徐々に増え、食べ残しが減ることにつながりました。



〈取組項目：子どもに対する環境負荷軽減の学習〉

〈取組場面：保幼〉

さつま汁パーティー

知多市立東部幼稚園（愛知県国公立幼稚園長会）

●実施時期：平成26年11月

●対象者：幼稚園児

●内容

知多市立東部幼稚園では、年長児が収穫したさつま芋を使いさつま汁を作ります。年長児が自ら考えた食材をお店に買いに行き、机に並べ見たり触ったりと食材への関心につなげたり、当日出た野菜の皮は捨てずに飼育うさぎの餌にしています。

だしの香りが広がる遊戯室では、お椀の中を覗き込み「これってごぼうかな」「さつま芋って甘いね」と食材に興味をもちながら「きれいに食べよう」と食べ残さないように意識して食べていました。

●活動の成果、今後の課題

普段は食べ慣れたお家の人の手作り弁当を食べています。いろいろな食材に関心が持てる機会となるように、みんなで育てたさつま芋やお店で買ってきた食材をとりいれました。

野菜の苦手な子ども「食べたらおいしかった」「買ってきたねぎが入っていた」と言葉を交わしながら残さず食べる姿につながりました。



〈取組項目：子どもに対する環境負荷軽減の学習〉

〈取組場面：保幼〉

●実施時期：平成 26 年 6 月 28 日

●対象者：市内在住小学生以上の親子

●内容

エコ・クッキングとは環境のことを考えて買い物、料理、片付けをすることです。講座ではエコ・クッキングのポイントを紹介しながら実際に料理や片付けをしていただくことで、環境問題についての意識を図り、毎日の生活で実践してもらうことを目的としています。

※エコ・クッキングは東京ガス（株）の登録商標です。

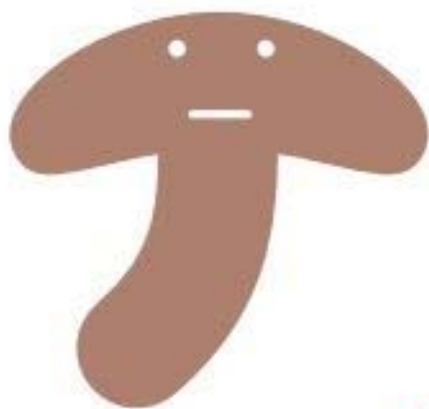


●活動の成果、今後の課題

食材を丸ごと使うことや、食器の洗い方等のエコ・クッキングのポイントを参加者が学ぶことができ、今後の生活に生かしていただけたと思います。

〈取組項目：環境に配慮した食生活の実践〉

〈取組場面：地域〉



(2) 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進

農林水産業が持つ多面的な役割などの正しい理解と身近な農林水産物の消費や利用を促進するため、学校や地域などで県内産農林水産物の積極的な利用促進に取り組みました。

JAあいち中央榎前環境保全会生きもの観察会

生活協同組合コープあいち

●実施時期：平成26年7月6日 ●対象者：コープあいち組合員

●内容

J Aあいち中央管内の榎前環境保全会が管理している水田では、全国的にも珍しい用水路と水田を結ぶ「水田魚道」を設置しています。これによりドジョウ、ヨシノボリ、フナ、メダカ等が復活しました。

環境保全会は化学合成農薬や化学肥料を削減し、水田魚道を設置した環境や生態系に配慮した農業を実践しており、その効果が田んぼに生息する生き物に見られています。

参加者が田んぼで虫や生きものを見つけ、環境に配慮した農業について学びました。

●活動の成果、今後の課題

化学合成農薬や化学肥料等を削減し、生態系に配慮した農業を実践している生産者の皆さんとの交流により、どのようにお米が育まれているかを学ぶことで田んぼの大切な役割を学ぶことができました。



〈取組項目：生物多様性の保全など農林水産業の役割への理解促進〉

〈取組場面：地域〉

「魚食の伝道師」派遣による出前授業

愛知県

●実施時期：平成26年7月～27年2月 ●対象者：小学生等

●内容

県では、子ども達に魚食の大切さや漁業のすばらしさ、役割などを伝える「魚食の伝道師派遣事業」を24年度から実施しています。

漁業者の方と県職員を、小学校等の授業に「魚食の伝道師」として派遣し、生きた水産物の観察や触れる体験、愛知県でとれる水産物や愛知県の漁業に関する授業を通じて、子ども達の漁業や水産物への理解促進を図りました。

平成26年度は10ヶ所で実施し、635名の参加がありました。

●活動の成果、今後の課題

子ども達からは、「本物の魚を見られて、触れて良かった。漁業の大変さやありがたさが分かった。」などの感想が寄せられました。

今後もこの取組を継続していく必要性を感じました。



〈取組項目：子どもに対する地産地消の理解と利用の促進〉

〈取組場面：学校〉

●実施時期：平成26年6月

●対象者：児童生徒

●内容

6月の食育の日の前に、給食委員会の児童生徒が、町内の生産者の畑を見学して話を聞かせていただいています。畑見学の内容や感想を、たよりや掲示物、給食放送等で全校に知らせています。

また、食育の日には、生産者と児童の会食を実施し、野菜についての話を聞いたり、質問に答えていただいたりしています。

●活動の成果、今後の課題

生産者の方から直接話を聞くことで、児童生徒が地元の野菜や生産者を身近に感じることができています。

継続して実施し、全校で紹介することで「地産地消」という言葉が定着してきました。より多くの児童生徒が直接生産者と関わることができる機会を設けることが今後の課題です。



〈取組項目：子どもに対する地産地消の理解と利用の促進〉

〈取組場面：学校〉

●実施時期：平成26年12月18日

●対象者：市内在住在勤者

●内容

市内在住、在勤の50名が参加し、西尾市歴史公園内、尚古荘において地元食材を使った懐石料理を食べながら、作法、料理法を学びました。食事後は、西尾の特産物である抹茶をいただきました。

●活動の成果、今後の課題

料理を作る講座は多いですが、作法などは勉強する機会が少ないため、参加者からは大変参考になったとの感想がありました。

また、西尾市歴史公園内にある、昭和初期に造られた、この地方では珍しい京風庭園である「尚古荘」を知っていただけたのも良かったです。



〈取組項目：青年期以降における地産地消の実践〉

〈取組場面：地域〉

●実施時期：平成27年 2月 ●対象者：大学生

●内容

大学で食について学んでいる学生を対象とし、学生にとってなじみの薄いファーマーズマーケット(以下FM)を見学してもらいました。(今回は大府市の「グリーンプラザおおぶ」と安城市の「でんまあと安城西部」を見学)。

また、タマネギほ場・ニンジンほ場に出向いて収穫・食味体験をし、採れたての新鮮な農産物の魅力を感じてもらうことができました。

当日の様子は、本会が発行する農産物直売所情報誌「フレ」2015年春夏号および秋冬号に掲載します。



●活動の成果、今後の課題

半数以上の学生がFMで買い物をした経験が無く、新鮮な地元農産物が安価で購入できることや、商品に生産者の名前が書いてあり安心・安全な農産物等、FMの魅力を知ってもらう良い機会となりました。

また、普段はあまり見られない生産現場で、農産物がどのように育てられているかを知ってもらうことができました。

〈取組項目：青年期以降における地産地消の実践〉

〈取組場面：地域〉

食農教育推進事業

豊橋田原広域農業推進会議（豊橋市・田原市・J A豊橋・J A愛知みなみ）

●実施時期：平成27年 2月11日 ●対象者：中学生以下の子どもと保護者

●内容

豊橋市・田原市・J A豊橋・J A愛知みなみで構成される豊橋田原広域農業推進会議では、食農教育を推進するため親子収穫体験ツアーや食農教育フォーラム、花育×ツアーなど各種イベントを開催しています。

平成27年2月に開催した「親子収穫体験ツアー」には57名の親子が参加し、J A豊橋のトマト選果場の見学と高糖度ミニトマト「美」の収穫を体験していただきました。



●活動の成果、今後の課題

普段は一般の方に開放していない選果場やミニトマトのハウスをご覧いただくことで、全国トップクラスの産地の魅力を感じていただくとともに、地産地消への意識を高めることができました。

今後も、このような体験事業を進めていきたいと思えます。

〈取組項目：生産者と消費者の思いを伝える農林水産業の実現〉

〈取組場面：地域〉

(3) 農林水産業や食品産業における環境への配慮の徹底

農林水産業における化学肥料や化学合成農薬の低減や資源循環の推進、食品産業における食品リサイクルの推進など、生産・流通する側も「もったいない」意識を持って環境への配慮に取り組みました。

GAP（農業生産工程管理）手法の導入などによる環境に配慮した取組

愛知県

●実施時期：通年 ●対象者：J Aあいち中央碧南人参部会

●内容

ニンジン生産者の出荷組織であるJ Aあいち中央碧南人参部会では、平成 21 年作から環境への配慮と生産物の安全と安心の確保に向けた作業工程の管理のため、GAP 手法を導入しています。

生産者は GAP チェックシートに記帳することで自らの取り組みを振り返り、改善すべき点を明らかにできます。

平成 26 年度は国のガイドラインに合わせたチェック項目の見直しを支援しました。



●活動の成果、今後の課題

GAP の導入により、生産者自らが作業工程を振り返り、問題点を把握することができました。

今後は、PDCA サイクルによる自主改善活動を定着させることが課題です。

〈取組項目：農林水産業における環境への配慮とバイオマスの利活用〉

〈取組場面：地域〉

